

人に寄り添う靴下作り

野富株式会社 前社長 野村博信



○靴下産地の変遷

イギリスのウイリアム、リーガ1589年に靴下編機を発明しイギリスが一大産地になりました。その後ドイツ、フランス、イタリア、日本へと産地が変遷していきま

て現在は東南アジアへと立ち上げたりして、私共売したいという事に確信と誇りを覚えています。現在、東京、大阪、神戸、博多で展開していただいております。お客様の視点に立ち、少しでも満足し

す。

私がこの仕事に従事してから半世紀を経て、産

地は、また私共の靴下を求めて下さるようなそんな靴下を作りたい、そうい

ユボン社が1938年にナイロン系を開発し、日

地は栄枯盛衰の一コマを、見聞してきた感があり

う想いで一生懸命試行錯誤を繰り返してまいりました。私が全否定する靴

本においては、足袋から靴下への移行が顕著にな

○靴下作りへの思い

昭和12年に先代が靴下、それは数日履いた

少しでも満足してもらえよう

下、足元に違和感を覚えるような靴下、その

つていきました。

製造業を開始するも戦争

百貨店様とお取引を願うような靴下は面白くな

日本産地は奈良、兵庫、

への徴兵等で中断を余儀なくされたりで再開でき

機を得ることができたのです。この業界においては、生産業者が百貨店

の中でも奈良県産地はナイロン系を逸早く取り入

たのは戦後経てからの事でした。

しく足を包まなくてはと直接お取引するのは稀

れて一大産地へと発展していったのです。一時期

化し「野富株式会社」を立ち上げました。

お取引を願ってから、お客様に履いてもら

奈良県内では、数千百社の靴下製造業者が凌ぎを

削っておりまして、私は昭和42年に入社

ようとしていきます。そして私共がお取引開始の時

そして昭和の後期に入りますと製造コストの安い韓国、その後中国そし

「NOUTOMI」を、

それが現在に至るまで、ずっと定番として定着し販

つと定番として定着し販

つと定番として定着し販

つと定番として定着し販